

		古来	近來	未来	schedule	
11月	7 土	中崎透「看板屋なかま」 ／ 椿井市場	顧劍亭「湖は日々変わる Everyday the Lake Changes」 ／ 北山十八間戸	キムスージャ「Mica-Painting」 ／ 東大寺観音院		
	8 日					
	9 月				ならまちセンターインフォメーション休館	
	10 火					
	11 水					
	12 木					
	13 金					
	14 土				東アジア国際シンポジウム／東大寺金鐘ホール	
	15 日					
	16 月				ならまちセンターインフォメーション休館	
	17 火					
	18 水					
	19 木					
	20 金					
	21 土				古都祝奈良の学校 ／ならまちセンター他	
	22 日				まちなか舞台 ／近鉄奈良駅前基広場	
	23 月祝				グリーン・マウンテン・カレッジ／ならまちセンター	
	24 火				ならまちセンターインフォメーション休館	
	25 水					
	26 木					
	27 金					
	28 土					
	29 日					
12月	5 土				グリーン・マウンテン・カレッジ／ならまちセンター	

お問 合 せ

奈良市アートプロジェクト実行委員会事務局（奈良市役所 文化振興課内）
〒630-8580 奈良市二条大路南一丁目1-1

TEL. 0742-34-4942
E-mail art@city.nara.lg.jp

主催：奈良市アートプロジェクト実行委員会、奈良市
「古都祝奈良の時空旅行」プログラムアドバイザー：株式会社 Art Tank（小平悦子＋近藤俊郎）
特別協力：東大寺、椿井市場、株式会社 岡井麻布商店、田上ハル、一般財団法人奈良市総合財団、奈良若者サポートステーション
「古都祝奈良の時空旅行」メインビジュアル、リーフレットデザイン：上浦智宏（ubusuna）＋小西奈葉子（asst.）

令和8年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業



第2次奈良市文化振興計画推進事業

【市民の文化に対する意識の高揚】【芸術鑑賞等広く市民が文化に接する機会の拡充】
【文化を担う人材の育成】【青少年の文化活動の支援】【文化の振興と経済との連携】



Web: <https://kotohogunara.jp/>

Facebook: www.facebook.com/naracityart/

X: @naracity_art

Instagram: @naracity_art



BEYOND TIME AND SPACE

FUTURE

RECENT TIMES

ANCIENT TIMES

未来

近來

古来

アートを巡り
時代と出会う

2026 11.7(土) _____ 11.29(日)

会場：東大寺観音院、椿井市場、北山十八間戸、近鉄奈良駅前基広場 ほか

未来

近 来

古 来

古都祝奈良の

時空旅行

奈良市アートプロジェクト古都祝奈良 2026 - 2027

2026年は、「東アジア文化都市2016奈良市」の開催から10周年、「奈良市アートプロジェクト古都祝奈良」の開始から10年目の節目にあたり、記念の年となります。これまでの10年を総括し、次の10年、さらにその先へ、古代奈良の持っていた寛容性、多様性、交流の精神を、文化を通じて見つめ直し、未来に向けて歩みを進める一歩として、「古都祝奈良の時空旅行」を開催します。

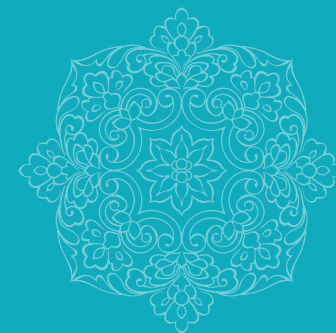
奈良は、古代から続くそれぞれの時間軸が重層的に実在する稀有な都市です。「古都祝奈良の時空旅行」は、そんな奈良を舞台に、ここに集う人々とアーティストが、過去・現在・未来を感じて体験するアートプロジェクトです。多様な文化を受容してきた古代、戦乱が続く中、弱き人々の救済を試みた中世～近世、人々が集い文化を牽引し、活気に溢れた近代～現代——それぞれの時代の記憶をとどめ、今なお生き続ける空間で、現代の表現を手掛かりに今を問い直し、共生と寛容、平和への願いを未来へと繋ぎます。10年という年月を重ねられたことへの感謝と、それを寿ぎ開催する「古都祝奈良の時空旅行」。秋色に染まる古都奈良で、アートとともに、時空を旅するような体験をお楽しみください。

展 示

それぞれの時代に人々が集った記憶の残る場所、東大寺観音院、北山十八間戸、橿井市場の3か所を舞台に、東アジアの3人のアーティスト、キムスージャ、中崎透、顧剣亨の作品を展示します。それぞれの場所がもつ背景と、現代の表現が呼応する時空間を体感してください。

参 加

市民や観光客の行き交う場所での公演や、アートで考えるまちづくり、そして小さな火を囲む学び合いの場など、古都祝奈良がこの10年、参加者とアーティストとともに育んできた、人が集い、学び、体験する場を創出します。



BEYOND TIME AND SPACE

古来 ANCIENT TIMES

キムスージャ 「Meta-Painting」

展示期間／11月14日(土)～11月23日(月祝) 10:00～17:00

会場／東大寺観音院(奈良市雑司町406-1)

アクセス／JR奈良駅・近鉄奈良駅からバス「東大寺大仏殿・春日大社前」下車、徒歩約15分



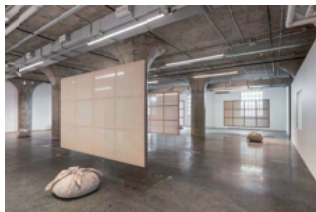
"Kimsooja: To Breathe Mookim, 2025-2026", installation view of "Dimensions of a Needle", MOCA Toronto, 2026. Courtesy of Axel Verweerd Gallery, MOCA Toronto and Studio Kimsooja. Photo by LF Documentation

profile／現在ソウルを拠点に活動するキムスージャ(1957年生まれ)は、絵画、布、インスタレーション、パフォーマンス、映像、光、音といった多様な表現形式を用い、媒体や形態の境界を超えて「生きること」と「芸術」の全貌を探索する国際的なコンセプチュアル・アーティストです。1980年代、彼女は絵画の二次元的な構造を考察しつつ新たな表現様式を模索する中で、世界の根源的な秩序である「前面」と「水平」という二元性を明らかにする一連の「縫う」作品を制作し、芸術的探索の対象を物質的なものから非物質的なものへと広げていきました。こうした非物質的な領域への一貫した追求と、「無為」を美学的な姿勢として採用する姿勢は、彼女の長年にわたる多様な媒体や手法への取り組みの根底にあり、概念的かつ思索的な美学とヒューマニズムの観点から、芸術と人間性に対する絶え間ない問いかけを推し進める原動力となっています。

彼女は国際的に知られた美術館での数多くの個展をはじめ以下のような場所で空間を使ったインスタレーションを制作しています。トロント現代美術館(カナダ、2026)、和美術館・HEM(中国、広州、2025)、アムステルダム旧教会(2025)、パリ商業証券取引所(2024)、フンボルト・フォーラム(ドイツ、ベルリン、2024)、シテルネルヌ/アレクシスバグ博物館(デンマーク、コペンハーゲン、2023)、サンティエ・エヌ・ド・メッツ大聖堂(フランス、メッツ、2022)、ワナス・コンスト(スウェーデン、2020)、ボワティエの館展(ボワティエ、フランス、2019)、ビーボディ・エッセックス美術館(アメリカ、マサチューセッツ、2019)、ヨークシャー彫刻公園および礼拝堂(ヨークシャー、イギリス、2019)、リビチンシュティン美術館(リビチンシュティン、2017)、ビルバオ・グッゲンハイム美術館(スペイン、ビルバオ、2015)、ボンビドー・センター・メス(フランス、メス、2015)、バンクーバー美術館(バンクーバー、カナダ、2013)、ソフィア王妃美術館(クリスタル宮殿(スペイン、マドリッド、2006)、アテネ国立現代美術館(ギリシア、2005)、デュッセルドルフ美術館(2004)、MAC リヨン(2003)、PAC ミラン(2003)、ウィーン美術館(2002)、ベルン美術館(2001)、MoMA PS1(2001)。また作家は、南米国際現代美術ビエンナーレ・BienalSUR(アルゼンチン、2021、2023)、Documenta 14(ドイツ、カッセル、2017)、ヴェネツィア・ビエンナーレ(2013、2007、2005、2001、1999)、光州ビエンナーレ(韓国、光州、2012、2000、1995)、リヨン・ビエンナーレ(フランス、リヨン、2000)、サンパウロ ビエンナーレ(1998)、イスタンブール ビエンナーレ(1997)、マニフェスタ 1(オランダ、ロッテルダム、1996)など、数多くのビエンナーレやトリエンナーレに参加してきました。また、ロッテルダムのフェニクス移住博物館は近年、彼女の主要作品である「Bottari Truck-Migrants」(2007 - 2009)を収蔵しています。

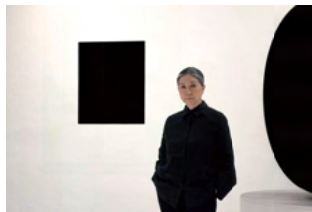


This November, I return to Nara with a new installation at Todaiji Temple, ten years after my work at Gangoji Temple in 2016. I have felt a deep resonance between Nara's long history, Buddhist tradition, and my practice. At Todaiji, I want to begin by listening to the site—to its atmosphere, its silence, and the presence of its surroundings. Rather than imposing an idea onto the space, I hope to allow the work to develop through a process of observation, encounter, and response. For this installation, situated within a building space constructed centuries ago in accordance with long-standing Japanese traditions, I sought to express a profound depth that transcends space and time—even though the exhibition itself is a fleeting event. While the Nara period represents a specific, finite moment in the past, it is inextricably woven into the long, ever-changing flow of time that followed. My hope is to create a space for quiet contemplation while exploring the relationship between suspended time and that which is in perpetual motion.



"Kimsooja: To Breathe Mookim, 2025-2026", installation view of "Dimensions of a Needle", MOCA Toronto, 2026. Courtesy of Axel Verweerd Gallery, MOCA Toronto and Studio Kimsooja. Photo by LF Documentation

2016年の元興寺での展示から10年を経て、この11月、私は新たなインスタレーションを携えて奈良に戻ります。私はこれまで、奈良の長い歴史や仏教の伝統と、自身の表現活動との間に深い共鳴を感じてきました。東大寺での制作にあたっては、まずその場の空気に耳を傾け、静寂や周囲の気配を感じ取ることから始めたいと考えています。空間に一方的にアイデアを押し付けけるのではなく、観察し、出会い、呼応していくプロセスを通じて作品を形作りたいと考えています。今回は日本の歴史で培われた法則に従って作られた観音院の空間で空間や時間を超える深淵を表現したいと考えました。奈良時代は過去の限られた時間ですが、それは後の移ろいゆく長い時間の中に確実に組み込まれています。止まった時間と永続的に動くものの関係性を探りつつ、静かに思索に耽ることのできる空間を創り出したいと願っています。



Courtesy of Studio Kimsooja. Photo by Sangwon Jung

近來 RECENT TIMES

中崎 透 「看板屋なかざき」

展示期間／11月7日(土)～11月29日(日) いつでも鑑賞可能

会場／椿井市場(奈良市椿井町5)

アクセス／近鉄奈良駅より南へ徒歩約5分



NAKAZAKI Toku, signmaker NAKAZAKI, 2014. Photo: Kunya Oyama

市街地に位置する椿井市場を舞台に看板作品を展開する。2001年から始めた《看板屋なかざき》と題した看板作品シリーズは、少し変わった契約書のもとに、依頼人の思い通りにならない少しズレた看板となり街を彩る。一つの商品が、商品そのものと、パッケージや広告といったイメージが一体となって存在していることを、一人の人間として例えてみると、外側から見える自分と、内側から思う自分の両者が合わさって一人の自分がいる、人の悩みの多くの部分はその両側のズレやギャップから由来するとも言える。そんなところが看板を作り続けている理由の一つなのだが、ズ



ラされた看板は、実態とイメージの距離を可視化させるような装置として機能する。依頼人の要望を必ずしも引き受けないという契約書は、本来は「美しく、カッコよく、内容を象徴した、商品が欲しくなる、行きたくなる」ような看板であるはずが、時には「ダサく、カッコ悪く、不快で、欲しくなく、行きたくない」ような作品としての看板に成り替わる。それらは、日常生活の中で目にするものが、マーケティングをはじめとした先回りで心地よさを集めて作られた風景であることを気づかせてくれるささやかな色眼鏡である。



profile／1976年茨城県生まれ。美術家。武蔵野美術大学大学院造形研究科博士後期課程満期単位取得退学。現在、東京と茨城県水戸市を拠点に活動。言葉やイメージといった共通認識の中に生じるズレをテーマに自然体でゆるやかな手法を使って、看板をモチーフとした作品をはじめ、パフォーマンス、映像、インスタレーションなど、形式を特定せず制作を展開している。2006年末より山城大督、野田哲子と共に「Nadegata Instant Party」を結成し、ユニットとしても活動。2007年末より水戸市内で「遊戯室(中越通・通産水城)」を設立し、運営に携わる(-2021)。2011年よりプロジェクトFUKUSHIMA!に参加。主に美術部門のディレクションを担当。近年の主な展覧会に館展「FICTION TRAVELER」水戸芸術館現代美術ギャラリー(茨城)、「観後妻有 大地の芸術祭 2024」(新潟)など。「瀬戸内国際芸術祭 2025」では瀬戸大橋エリアでの16名の作家による展覧会「SAY YES」のディレクションを担当。令和4年度(第73回)芸術選奨新人賞(美術部門)受賞。nakazakitohru.com

「看板屋なかざき」依頼人一覧



アートやカルチャー、「奈良のまちでおこること」にアンテナを立て、活動している素敵な方々に看板の依頼人になっていただきました。ウェブサイトでは、それぞれの方の活動もご紹介しています！

飯田 悠一郎さん	中島 章さん
生駒 あさみさん	中原 忠実さん
上浦 智宏さん	西川 雅子さん
魚谷 和良さん	服部 健太郎さん
片山 由希子さん	服部 多圭子さん
北村 大智さん	林 しょうこさん
介橋 みどりさん	福島 明子さん
齋藤 未来さん	おみみさん
佐藤 啓一郎さん	森本 未希さん
杉山 拓次さん	

顧 剣亨 「湖は日々変わる Everyday the Lake Changes」

展示期間／11月7日(土)～11月29日(日) 10:00～17:00

会 場／北山十八間戸(奈良市市川上町454)

アクセス／JR奈良駅・近鉄奈良駅からバス「今在家」または「東之阪町」下車、徒歩約5分



松尾山と若草山の上から奈良の街を眺めてみた。昔、同じ場所に立った人たちは、どんな風景を見ていたのだろう。僕が今眺めている景色と、どれくらい重なっているのだろう。街を歩いていると、現代的な建物と、それぞれ異なる歴史を持つ建築が、ごく自然に混在している。ヨーロッパを旅したときに見た都市では、古い街並みがあるままとりとして残され、現在の都市から区別されていることが多かった。けれど奈良では、長い年月を経て残ってきたもののすぐ隣で、新しい建物が生まれ、街は今も姿を変え続けている。昔の人たちが見ていたものを目の前にしながら、

その周囲には彼らが知ることのなかった景色が広がっている。過去に属していると思っていたものも、今、僕の目の前にある。道を歩いていると、何度も別の時代へタイムワープしているような感覚になる。過去から現在へと積み重なってきた奈良の時間。生成と消失、継承と更新を繰り返しながら、絶えず書き換えられてきた風景をもう一度眺めてみる。これから先、同じ場所に立つ人たちは何を眺めるのだろう。そこには、今僕の目の前にある奈良が、どれほど残っているのだろう。

profile／1994年京都生まれ、上海育ち。京都芸術大学(元京都造形芸術大学)現代美術・写真コース卒業。大学在学中にフランス・アルル国立高等写真美術学校へ留学。現在、京都を拠点に活動中。私たちが身を置く空間は、進み続ける波のように、一つの形として確定しきることなく、複数の時間が重なり合いながら変化している。画は、そのような空間のなかで、変化し続ける時間と空間のあいだに現れる風景を見つめている。そこで捉えられたイメージは、複数の時間が交差しながら生成されつつある状態として示されている。自身の身体的な感覚では捉えきれないモチーフを扱いながら、画は、そこに含まれる情報量、時間を縮み込むような独自の操作によって整理し直し、実素同士の関係を固定しないまま配置している。そこでは、私たちの知覚や理解もまた、境界的な状態として立ち現れている。主な展覧に「Aperto 18: Intervals of the afterimage」金沢21世紀美術館(金沢)、「Dimensions Unseen」Yumiko Chiba Associates(東京)、「A PART OF THERE IS HERE」YUKIMOMIZUTANI GALLERY(東京)、「KYOTOGRAPHIE 2019」「15972 Sampling」SFERA(京都)、「霧壽」Wu-Maij ワコールスタディオホール京都ギャラリー(京都)、「Utopia」元淳風小学校(京都)等。主な受賞歴に「KG + Award 2018」グランプリ、「tsanwacompany Art Award / Art in The House 2019」グランプリ。



まちなか舞台 — 奈良パフォーマンスラボ —

会 場／近鉄奈良駅前行基広場(奈良市東向中町29)

申込不要・観覧自由

【11月22日(日)】

「響演」Task Force 殺陣cajōn／上演時間：15分

①10:00～ ②13:00～ ③15:30～

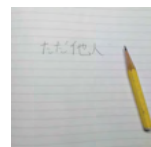
ペルー発祥の箱型打楽器「カホン」と殺陣の共演。居合と殺陣の演舞に合わせてカホンを叩きます。観ているお客様自身の目で敵をイメージしてみてください。



「釣れない」ただ他人 一人芝居／上演時間：20分

①10:30～ ②13:30～ ③16:00～

釣りをする男が何かを見つける話。海ではなく、川でもなく、陸の上で、地上で釣れもしないのに、何を探しているのか。これは何も持たない、なんの実力も力も、スキルも持たない、一人の男の人生の一人語り。



「世界でいちばん素敵な街角2026」シアター・プロジェクト・奈良

演劇／上演時間：10～15分

①11:00～ ②14:00～ ③16:30～

昨年度のまちなか舞台上で上演された「世界でいちばん素敵な街角」の新作。ストリートならではの実験的で斬新な演出手法を駆使したアカペラ風ミュージカル風の演劇。街角で暮らす靴磨きの少年と泥棒の少女を中心に、貧しいながらも助け合っている人々達の心温まるストーリー。



【11月23日(月祝)】

▶▶▶「ならでは」青少年と創る演劇 Lite パフォーマンス／上演時間：15分

①10:00～ ②13:00～ ③15:30～

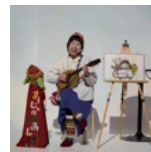
一人の女性が、近鉄奈良駅前行基広場にやってくる。彼女は妹と二人で奈良を訪れていたが、いつの間にか妹とはぐれてしまっていた。今回の旅の目的は、傷ついた妹の心を少しでも癒やすこと。果たして妹は一体どこへ向かったのか。摩訶不思議な若者たちがそれぞれ語る「奈良ならでは」の癒しスポットは思いもよらぬ場所ばかり。姉は彼らの言葉に翻弄されながら、必死に妹の行方について、そして「奈良ならでは」の場所について想いを馳せる。



「チョケルとオオチャック」すうじいのかみしばい 紙芝居／上演時間：20分

①10:30～ ②13:30～ ③16:00～

珍しいマンドリンの弾き語りによる「おはなしのうた」、オリジナル紙芝居「チョケルとオオチャック」、鹿のバベットと一緒に楽しむ参加型クイズなど、音楽と紙芝居と遊びを組み合わせたステージです。最後は、地元からみんなを元気に!という思いから生まれた、生駒のご当地応援ソング「まんまのしあわせ」を、歌詞の紹介や解説を交えながら歌います。子どもから大人まで、一緒にほっこり楽しめましょう!



「つばさ」ボカリン記憶舎 演劇／上演時間：15分

①11:00～ ②14:00～ ③16:30～

駅前広場に立つ若い女、良奈。看板を胸の位置に持ち、行き交う人を眺めている。看板には「ハグしましょ」と書いてある。通り過ぎてゆく人々。少し離れた処で詩集を売る女。スナフキン臭がする。通りがかりの中年の女が良奈に声をかけてきた。ハグしたいわけではないようだ。理不尽な神問答が始まり、行基菩薩をも巻き込んで、互いを正当化し合う二人。「今」をどう生きるかを炙り出す、三つの愛の物語。



▶▶▶ 青少年と創る演劇 Lite 参加者：奈良にゆかりのある中高生



「青少年と創る演劇」は、公募で集まった奈良にゆかりのある中高生が、プロとともに創る演劇を通じて、創作する喜び、楽しさを知るプログラム。これまで、ホールでの舞台公演、短編のリーディング、演劇の入口となるワークショップの開催と、形や規模を変えながら実施してきました。今年は「まちなか舞台」の一公演としてオリジナルの短編作品を上演。学校も学年も違う初めて顔を合わす中高生たちが9日間の稽古を経て、初の屋外公演、初のパフォーマンスに挑戦します!



劇作家・演出家。劇団田上パル主宰。1983年熊本県生まれ。桜美林大学文学部総合文化学科卒業。劇団活動のほか、中高生や大学生との創作、市民劇団や公共ホール事業への書き下ろし、海外共同制作など、様々な形で活動を展開。創作型から体験型、育成講座まで幅広くワークショップも行う。富土見市民文化会館キラリふじみ、江原河津劇場の芸術監督を歴任。「古都祝奈良」(演劇部門)プログラムディレクター、地域創造派遣アーティスト、宇土市民会館アドバイザー、桜美林大学教員。http://tanoueai.com/

◀ 古都祝奈良の学校 ▶

古都を学ぶ。古都とつくる。

古都祝奈良の学校は、「奈良で新たな表現を目指す人の活動の場を開くこと」と「教科書をつくること」を目的とする3年間のプロジェクト。令和6年度に開始し、1年目は公募で選ばれた7組のアーティストがリサーチ滞在を行い、奈良での活動プラン発表。2年目は1日限りの学校の参加者との対話で導き出されたキーワードをもとに「古都祝奈良の学校 教科書0号」を発行しました。3年目の今年は、公募で選ばれた参加者と合宿を行って、対話や散歩を通じて自身の活動や表現を、「教科書0号」で集められたキーワードの視点から作品プランとともに掘り下げます。そして、これらの取り組みを基に、「教科書」の完成を目指します。



【担任 メッセージ】

迷う事は楽しいです。森や荒野、知らない街や人々の中を、何かに惹かれて彷徨う。ワンダリングという世界との出会い方は、人生の豊かさにつながっている。知の森であったり、関係の森であったり、表現の森であったり、自分の知らない世界に入り込んでみる事、そして自分では思ってもみなかった魅力に出会う事。そんな森の一つを奈良で創りませんか？

【副担任 メッセージ】

自分自身をかえる方法は、予定を入れること。自分にとって大切なと感じる予定を入れること。魅力的なところと出会うこと。不思議な人と出会うこと。未知の何かと出会うこと。心が動く何かと出会うこと。出会うまで動き続けることができるというのだけど・・・好きなことじゃなくていい。気になる何かと出会い、無視できない何かと向き合い、何かが違うと感じる些細な違和感を大切にすること。そのことを許し合える誰かと出会うこと。ならまちでお待ちしております。



担任／小山田 徹

1961年鹿児島県生まれ、京都府在住。美術家／京都市立芸術大学学長。1984年大学在学中に友人たちとバフォーマンスグループ「ダムタイプ」を結成。主に企画構成、舞台美術を担当し、国内外の数多くの公演に参加。1990年から、「ウィークエンドカフェ」、「Bazaar Cafe」などさまざまな友人と造形施工集団を作り共有空間の開発を行う。「奈良市アートプロジェクト古都祝奈良」にて「グリーン・マウンテン・カレッジ」「ならまちワンダリング」「古都祝奈良の学校」を実施。



副担任／藤 浩志

1960年鹿児島県生まれ、美術家／秋田公立美術大学客員教授・名誉教授 NPO法人アークセンターあきた理事長。京都市立芸術大学大学院美術研究科修了後、バフォーマンス・メディア国立芸術学校講師、都市計画事務所勤務を経て「地域、適正技術、協力関係」を軸としたプロジェクト型の美術表現を全国で実践。十和田市現代美術館館長、秋田市文化創造館館長、秋田公立美術大学教授を歴任。主な作品「2025カエルの池シンポジウム」「Kackko」「Jurassic Plastic」等。
<https://www.fujistudio.co>



1日目 11月21日(土) 13:20～ 2日目 11月22日(日) 10:30～

会場／奈良市ならまちセンター コトナラボ(奈良市東寺林町38)、ならまち界隈
定員／30人(応募多数の場合選考あり)
締切／11月10日(火) 12:00

参加無料・要申込



つくるつながる 未来へつなげる 開かれた場所 コトナラボ部

奈良市ならまちセンターコトナラボ

まちの人がやりたいことができる拠点づくりを進めています。かつて事務所として使われていた空間を改装し、オープンスペースとして誕生した「コトナラボ(KOTONA Lab.)」。オープンから2年を迎え、今では多様なプロジェクトが動き出す拠点として親しまれるようになりました。「素材が集まり、人が出会い、新たなプロジェクトが生まれる」というコンセプトのもと、古都奈良の実験室として、人々の交流と創造的な活動を支えています。

「コトナラボ」ってこんな場所

子どもから大人まで、自由に手を動かして何かをつくったり、遊び、手芸、音楽、演劇など、様々な表現を楽しみ集うことでまた新しいコトが生まれる場所です。また、「コトナラボ部」という奈良で活動する部員とアートコーディネーターがアイデアを持ち寄り、ワークショップやイベントを企画・実施することもあります。市民のみならずと一緒に楽しみなが、奈良の新しいアートが生まれる場所を作っています。



【コトナラボ・エントランス】 11月7日(土)、8日(日) 10時～12時 「子ども作曲ワークショップ」
11月8日(日) 13時～ 「壮けり子のゆる〜くピアノ部屋」

【ギャラリー】 11月10日(火)～11月23日(月祝) 10:30～16:00 ※最終日は15:00まで
Space Department展 海外アーティストが奈良で滞在制作した作品群のアーカイブを発表。

11月26日(木)～12月6日(日) 10:30～16:00

中川学『だいぶつさまシリーズ』原画 & 作品展 イラストレーターと住職の二足のわらじを履く中川学さんの「だいぶつさま」シリーズの絵本の原画と作品の展示。

11月は、こんなイベントがあります！
ぜひ遊びに来てください！

◀ グリーン・マウンテン・カレッジ ▶

テーマ「シェアと新しい豊かさ」

グリーン・マウンテン・カレッジは、小さな火を囲みながらゲストのトークを聞き、そして互いに対話する「学び合いの場」。2018年から続く緩やかなカレッジが、今年もならまちセンター芝生広場に開校します。9年目の今年は、9月、11月、12月に全3回開校。発案者でカレッジ校長の小山田徹(美術家・京都市立芸術大学学長)がゲストを迎えて対談し、そして対談後には、参加者を交えた「火」を囲む学び合いの時間となります。そこに集う人々の対話が、やがて膨大な学びの蓄積となり、新しい文化の源流へとつながります。開校の目印は芝生広場に立つティビエント。小さな火のもとへ、どうぞふらりと立ち寄りください。



第1回 9月5日(土)
ゲスト／ブブ・ド・ラ・マドレーヌ
(アーティスト)

1961年大阪府生まれ。3歳から19歳まで奈良で育つ。45歳の時に親の介護をきっかけに再び奈良で暮らし始める。大学時代は演劇に没頭。その後パフォーマンス、映像、絵画、立体など様々な分野での活動を続ける。同時に、HIV/エイズと共にある人、女性やセクシュアルマイノリティなどの人権や健康に関する市民運動にも携わる。



第2回 11月22日(日)
ゲスト／齋藤 博史(カフェ店主・篆刻師)

1984年神奈川県生まれ。香川県在住。カフェ店主、篆刻師。東日本大震災をきっかけに、2016年神奈川県から香川県へ移住。2019年より週末カフェ「サトウコーヒー」を始める。1段がつく前の食材を集めて無料で軽食を提供する「緑食会」や、身の回りの物をみんなで修繕する「修繕とコーヒー」などを開催。種を繋ぎながら野菜や果物、仲間と大豆栽培など、小さな循環を意識した場作りに取り組む。



第3回 12月5日(土) ゲスト／本間 智希(建築史家 下鴨ロンド主宰)
1986年静岡県生まれ東京育ち。早稲田大学大学院建築史研究室を修了し、2013年京都へ移住。2014年10月から4年半、奈良文化財研究所で文化的景観の調査研究に従事。2019年4月に京都北山を拠点とする一般社団法人「北山舎」を共同設立。2023年4月より戦前の洋館をケアするコモンズ「下鴨ロンド」を主宰。ほか、フィールドワークや半解体を通じたリサーチや、解体される建物の看取りとレスキューのコレクティブ「風土公団」を主宰するなど活動は多岐に及ぶ。

各回 18:00～20:00 校長／小山田 徹

会場／奈良市ならまちセンター 芝生広場(奈良市東寺林町38)
(アクセス：JR奈良駅東口から東へ徒歩15分、近鉄奈良駅から南東へ徒歩12分)

申込不要・参加無料・入退場自由

◀ 東アジア国際シンポジウム「東アジアをアートでつなぐ」 ▶

「東アジア文化都市2016奈良市」から10年。パートナー都市である中国・寧波市、韓国・済州特別自治道との交流の継続だけでなく、当時のレガシーを受け継ぎながら各都市においてもアートとまちが密接につながるプロジェクトを展開してきました。その10年間の総括を行いながら、3人の中韓のアーティストが10年を経た現在の奈良の地で、何を感じ、どのような思いで自身の作品に昇華したのか。片岡真実さんのナビゲートでそれを紐解きます。

古都祝奈良の時空旅行 招聘アーティスト

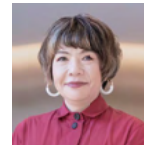
キムスージャ、中崎 透、顧 劍亨

東アジア文化都市2016パートナー都市

奈良市(日本) 仲川げん(奈良市長)

済州特別自治道(韓国)、寧波市(中国)の代表者 片岡 真実(森美術館 館長)

ファシリテーター



片岡 真実／森美術館館長、国立アートリサーチセンターエグゼクティブ・アドバイザー、京都芸術大学大学院ICA京都所長。第9回光州ビエンナーレ共同芸術監督(2012年)、第21回シドニー・ビエンナーレ芸術監督(2018年)、国際芸術祭「あいち2022」芸術監督、ヘルシンキ・ビエンナーレ共同キュレーター(2027年)、CIMAM理事(2014～2022年)、会長(2020～2022年)、フランス芸術文化勲章シュヴァリエ受章(2026年)。

Photo: Kenshu Shintsubo

11月15日(日) 15:00～16:30(予定)

会場／東大寺金鐘ホール(奈良市水門町100 東大寺総合文化センター内)

申込方法／専用フォームから申込

申込締切／11月10日(火) 申込多数の場合は抽選

参加無料・要申込



デジタルスタンプラリー

スタンプ達成数に応じて、限定オリジナルグッズをプレゼント！
「古都祝奈良の時空旅行」の作品展示やまちなかのお店を巡るデジタルスタンプラリーを楽しもう

「古都祝奈良の時空旅行」会期中、奈良市公式アプリ「SHIKA no ASHIATO」によるデジタルスタンプラリーを実施！
回ったスポット数に応じて、オリジナルトートバッグ・缶バッジをプレゼント（場合により抽選後、後日発送のグッズあり）。
3会場と加盟店を巡って、すてきな限定グッズを手に入れよう。

＜ 期 間 ＞ 11月7日（土）～11月29日（日） ※キムスージャ「Meta-Painting」のみ
11月14日（土）～11月23日（月祝）
＜スタンプスポット＞

- ・キムスージャ「Meta-Painting」／東大寺観音院
- ・中崎透「看板屋なかざき」／椿井市場
- ・顧剣亨「湖は日々変わる Everyday the Lake Changes」／北山十八間戸
- ・奈良市ならまちセンター
- ・奈良国立博物館 青銅器館 他

このほか、「SHIKA no ASHIATO」加盟店も多数参画。本キャンペーン対象のお店は「SHIKA no ASHIATO」アプリ内キャンペーンページをご覧ください。



※デジタルスタンプラリーには奈良市公式アプリ「SHIKA no ASHIATO」のダウンロードが必要です。
観光情報・奈良市内の加盟店で貯まる・使えるポイントやおすめ特集など、お出かけの相棒になる機能満載！



椿井市場

大正9年の創設から、100年以上の時を超えて。
本誌4ページの「看板屋なかざき」設置に協力していただいた椿井市場のみさんを紹介します！

① はなつむぎ

営業：9:00～16:00
令和4年度十輪障害者福祉基金の助成によって開始した椿井市場の花広場。素敵なお店がありますように！



② おばんざいのん

営業：17:00～22:00（予約時は16:00OPEN）
定休日：日曜・水曜・木曜
おばんざいと日本酒のお店！予約制ランチあります！



③ ラーメン 大廣

営業：12:00～14:00（予約時は16:00OPEN）
定休日：日曜・祝日
昭和47年創業。創業以来仕込みから手作り。夫婦で愛をこめつつの味ががですか？



④ warm and fuzzy

営業：12:00～19:00
定休日：不定休
国内外の古着やミラリ、ヴィンテージ、昭和レトロな食器や雑貨など、店主が心惹かれたものを集めたお店です。



⑤ とり末

定休日：日曜・木曜・祝日
地元から愛されるかしわ屋さん



看板屋なかざき 設置エリア

※作品を撮影される場合は周囲の方へのご配慮をお願いします。



※民家あり



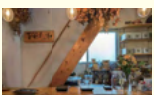
⑥ ちいさな小枝

一般社団法人 奈良市手をつなぐ親の会・奈良県鹿の会 就労継続支援A型事業所
美鹿パトロール！有害ゴミから「鹿の命を守り」隊！活動中



⑦ 龍だこ

営業：18:00 OPEN
定休日：日曜・月曜
たこ焼き居酒屋
たこ焼き、明石焼きの居酒屋さん！テイクアウトOK！



⑧ TABI Coffee Roaster

営業：12:00～18:00（祝日 12:00～17:00）
定休日：水曜
第1第3日曜（不定休あり）
2017年開店。煎露粉で11年間焙煎を担った店主が、スペシャルティコーヒーをもっと手軽に、もっと身近に。



⑨ KORE KARA

[flower shop] 営業：月・火 10:00～16:30
金・土 08:00～22:00
定休日：水曜
1本からお気軽に [居酒屋] 営業：18:00～24:00
定休日：日曜
バスとアラカルの居酒屋さん！



⑩ 八百馬商店

営業：10:00～18:00
定休日：日曜・祝日
昭和23年創業
皆様のお店をお待ちしています！



⑪ TACOS SLAVE

営業：12:00～20:00（土日変更あり）
定休日：月曜（フードトラック出店時店舗休業）
心から誇れるものを来てくれた皆さんに、tacosという形で伝えたいかなと思います。

イベント

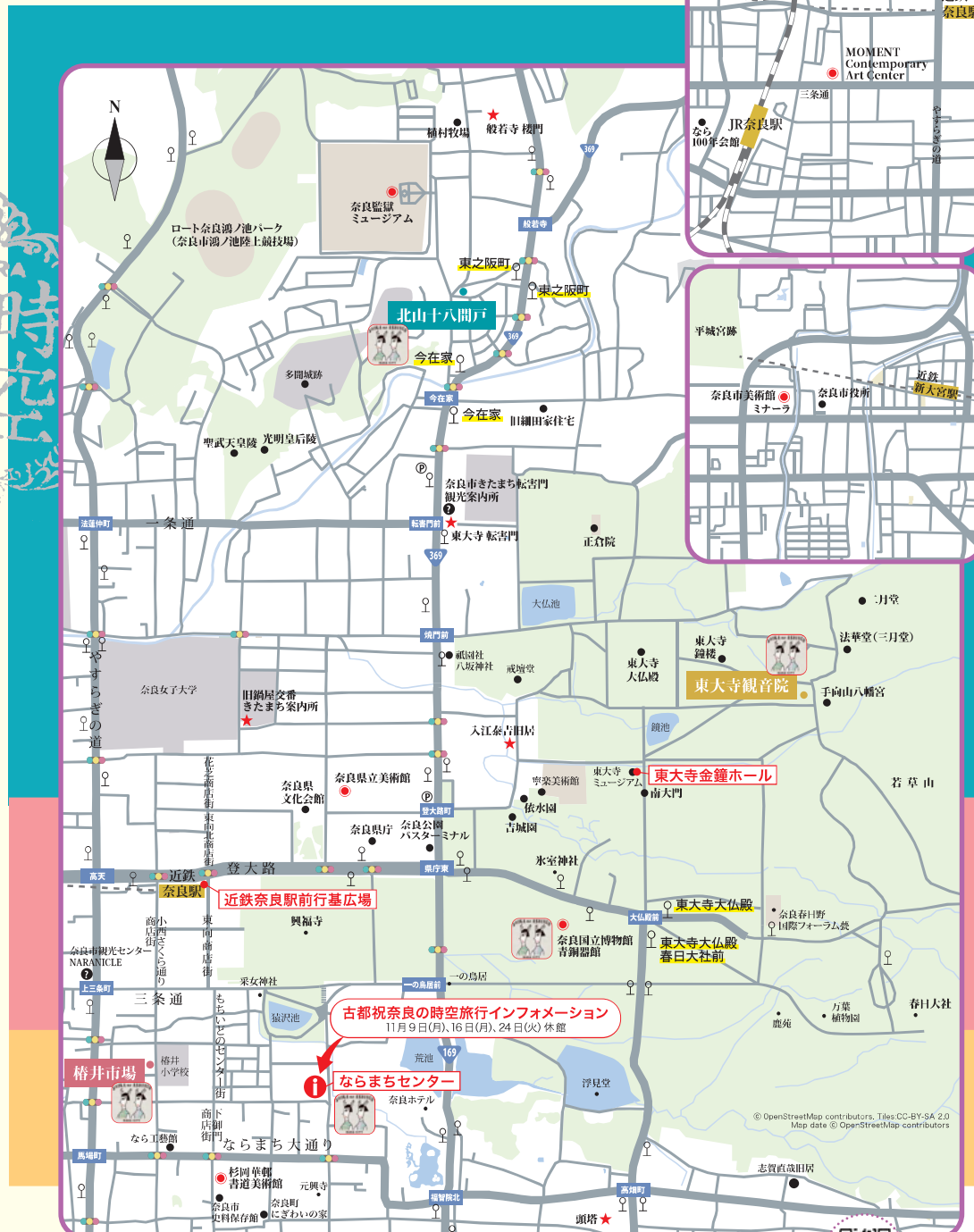
この地ならではの文化や夜の魅力を体験できるイベントをご紹介します。古都祝奈良の時空旅行とあわせて巡ることで、奈良のまちに流れる特別な時間や、奥深い表情をより立体的に楽しむことができます。

【奈良町見知り2026】開催期間：11月2日（月）～11月8日（日）

きたまち、ならまち、高畑、京終・紀寺一奈良町のちょっといいところを見て・知る秋の一週間。

【ナラノヨル～Nara by Night～】開催期間：通年 「BARの街・奈良」を世界的バーテンダー金子道人が紹介するバーマップ

【NARAD EAT FESTIVAL 2026】開催期間：10月1日（木）～11月30日（月）奈良市・田原本町・明日香村・吉野町の4市町村の美味会場：カフェ エトランジェ ナラッド、プランシエラ石舞台テラス（明日香村）食材を存分に使用した料理を味わえる期間限定イベント



★ おすすめの時空旅行スポット ● おすすめのアートスポット 各おすすめスポットの紹介はウェブで

